

2024年8月22日
SCC コンファレンス（伊藤ホール）

サステナビリティのためのコーポレートガバナンス： オープニングスピーチ

松島 齊

東京大学大学院経済学研究科教授

社会的共通資本寄付講座（SCC）代表

* 「サステナビリティの経済哲学」第3章より
（2024年8月20日、岩波新書）

松島によるコーポレートガバナンスの新提案：

ポスト・ステークホルダー型モデル

cf. シェアホルダー型
狭義のステークホルダー型

1. 途上国の経済発展のための二つのアプローチ (1960年代、プレ・サステナビリティ)

- ・ 農業中心： 持続可能性（サステナビリティ）
サーキュラーエコノミー
サステナビリティに貢献する人間開発
- ・ 工業中心： 即効性のある経済成長
リニアエコノミー（take-make-dispose）
生産性向上のための人的投資

工業中心のアプローチが主流になった

2. サステナビリティの時代に求められる経済発展

先進国、途上国を問わず、サステナビリティの実現を目指そう
農業中心のアプローチを一般化、理念化し、全ての産業において目指そう

- * 伊藤耕三先生（基調講演2）： プラスティックのサーキュラーエコノミー
- * 金井政明会長（基調講演4）： 公益人本主義経営

3. 経済学：2つの「人的資本」概念 (宇沢弘文による指摘)

セオドア・シュルツの人的資本：

サステナビリティに貢献する人間開発

「人それ自体を目的とせよ」

多様な倫理とその進化

「異端の経済学」扱いになった

フリードマン（ベッカー）の人的資本：

生産要素としての人間、アンチ・サステナビリティ

「人を手段として見よ」

経済的短期的ベネフィットに倫理が隷属

「主流派経済学」になった

4. 今日の経済学

理論経済学： フリードマンの呪縛からなかなか逃れられない
サステナビリティに対する関心が非常に低い
現状のレベルではサステナビリティを体系的に検討できない

例：ゲーム理論： 戦略的相互依存のみ
システムの相互依存の欠如

実証経済学： 多くの（トップランクの）実証経済学者によってサステナビリティに関連する重要な研究がなされている

* Marianne Bertrand 先生（基調講演3）： ジェンダー

経済学の課題： 理論なき計測
経済パフォーマンスへの偏り
サステナビリティの包括的アプローチの欠如
議論が深まらない（体制のための機会の平等？ ダブルスタンダード？）

5. サステナビリティとは？

- **トリプルボトムライン： 経済、社会、環境**
- **未来世代、現世代、地球環境**
- **誰一人取り残さない**

経済的サステナビリティ： 持続可能な資源管理、持続可能な経済成長 ...

社会的サステナビリティ： 貧困、格差、不平等、健康、人権、教育、食、住環境、社会的包摂 ...

環境的サステナビリティ： 気候変動、生態系、生物多様性 ...

6. SDGs（持続可能な開発目標、2015年～）：国連の新たな基本方針に

- | | | | |
|-----|--------------------|-----|---------------|
| 1. | 貧困をなくそう | 2. | 飢餓をゼロに |
| 3. | 全ての人に健康と福祉を | 4. | 質の高い教育をみんなに |
| 5. | ジェンダー平等を実現しよう | 6. | 安全な水とトイレを世界中に |
| 7. | エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 8. | 働きがいも経済成長も |
| 9. | 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10. | 人や国の不平等をなくそう |
| 11. | 住み続けられるまちづくりを | 12. | つくる責任つかう責任 |
| 13. | 気候変動に具体的な対策を | 14. | 海の豊かさを守ろう |
| 15. | 陸の豊かさも守ろう | 16. | 平和と公正をすべての人に |
| 17. | パートナーシップで目標を達成しよう | | |

- ・ SDGs の 17 の目標は相互に依存している
- ・ 全世界市民、全ての立場に呼び掛けている
- ・ 特に営利企業に期待が寄せられている：
 - 持続可能な社会的インパクト
 - 多様なステークホルダーとの協働
 - 新しいコーポレートガバナンスの構築

* 星岳雄先生（基調講演Ⅰ）： コーポレートガバナンス

7. サステナビリティの歴史的背景

世界市民の意識の高まり
多様な制度的仕組みの開拓
営利と社会的責任の両立

1. 1970年代～：
環境運動
ボランティアな社会的責任（CSR）
宇沢弘文「社会的共通資本」
2. 1990年代～：
ブルントラント報告書（1987）
経営戦略としてのCSR
3. 2000年代～：
エシカル（ESG）投資：Who cares wins
サステナビリティ経営
Bコーポレーション認証
社会的企業（ベネフィットコーポレーション）

- 社会的企業： 独自の社会的インパクト目標を、本業において持続的に達成することを目指す営利企業
不要な財務リスクを避け倒産を防ぐ： cf. 環境リスク、社会的リスク
- エシカル（ESG）投資： Environment, Social, Governance
企業の社会的インパクト目標の持続的達成が主要な関心事
社会的インパクト目標に対する共感
企業自体の持続性のシグナルとしての収益性
- * 小松真実さん（パネリスト）： 事業投資型クラウドファンディング

8. ポスト・ステークホルダー型コーポレートガバナンス

従来型モデル

株主重視
短期的経済的ベネフィット

経済的インセンティブ

契約の束、取引費用

利害関係者の調整バランス

信任、信託、フィデューシャリー

ポスト・ステークホルダー型モデル

広義のステークホルダー型
長期的持続的ベネフィット

持続可能な倫理的動機

倫理的リーダーシップ
大義のプラットフォーム

共有価値観、共感の創造

社会的責任
受益者と非受益者の明確な区分なし
生態系、生物多様性 ...

従来型モデル

サプライチェーン管理

人的資本経営

トップダウン

カイゼン

営利と慈善

ポスト・ステークホルダー型モデル

サーキュラーエコノミー

サステナビリティ型LCA：活動範囲をこえた社会的責任

サステナビリティへの貢献のための人間開発

民主性、透明性、コミュニケーション

大胆なイノベーション：環境技術、行動変容

本業に寄り添う社会貢献

9. サステナビリティの時代において資本主義はどう変わるか：

「自生的秩序（ハイエク）」概念の劇的改変

従来の資本主義

ビジネスアントレプレナーの発掘装置

価格の情報機能

限定された政府の役割

経済的効率性にもとづく市場淘汰

効率と公正の潜在的対立

外部性の軽視

新しい資本主義

社会的アントレプレナーの発掘装置

非価格情報の整備と普及

政府、民間企業、NPO、コミュニティ、国際機関
のグローバルパートナーシップ

サステナビリティの貢献にもとづく市場淘汰

効率と公正の統合

経営戦略としての外部性内部化

国際協力の仕組みと市場の補完的關係強化